

視 察 調 査 報 告 書

委 員 会 名	M I C E 検 討 特 別 委 員 会
参 加 者	委 員 長 杉 浦 久 直 副 委 員 長 酒 井 正 一 委 員 田 口 正 夫 三 塩 菜 摘 野 本 篤 青 山 晃 子 鈴 木 英 樹 三 宅 健 司 築 瀬 太
視 察 日 時	令 和 4 年 5 月 11 日（水）10:00～12:00
視 察 先 ・ 概 要	群 馬 県 前 橋 市 人 口：332,270 人 世 帯 数：153,129 世 帯 面 積：311.59 k m ²
視 察 項 目	前 橋 ス ポ ー ツ コ ミ ッ シ ョ ン に つ い て
視 察 概 要	1 設 立 の 目 的 前橋スポーツコミッションは、前橋市及び周辺地域にあるスポーツ資源や特徴ある風土・観光資源を活用し、スポーツに関する大会、スポーツイベントを誘致し、開催支援等を一元的に行うことにより、前橋市のさらなるスポーツ振興及び経済活性化を図ることを目的としている。 2 事業概要（令和3年度） (1) 運営支援活動 ①スポーツ大会等開催助成金（共催負担金） 申請件数28件中15件実施 4,025,000円（共催負担金1件650,000円含む） ※コロナ禍により大会規模の縮小等により対象外の大会があったため、開催件数は18件であったが助成金対象額は15件となった。 ②大会の広報・PR 主要イベントにおいて、駅前歓迎フラッグの設置を行った。 (2) 広報・PR活動 ①前橋スポーツコミッションホームページの更新（随時） ②前橋市スポーツカレンダー「2021－2022版」の作成 ③視察の受け入れ 等 (3) オリンピック等事前キャンプ地誘致活動 ホストタウン登録国（ハンガリー、スリランカ、コロンビア、ベラルーシ、南スーダン）及びベルギーと、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の直前（アフター）キャンプ受け入れに向けて調整を行ってきたが、コロナ禍のため、南スーダンとベルギーの直前キャンプ受け入れのみの実施となった。 ①南スーダン

	受け入れ期日：令和３年４月１日～令和３年８月26日 ※受け入れ開始日：令和元年11月14日 受け入れ人数：５名 ②ベルギー 受け入れ期日：令和３年７月９日～31日 受け入れ人数：延べ32名 ３ 組織体制 ①事務局：４名 ②役員：会長１名、副会長２名、監事２名、代表委員２名 ４ スポーツ大会等誘致・支援活動 (1) スポーツ大会等支援実績 スポーツ大会等開催助成金 ①平成30年度 申請36件、実績36件、交付金額17,796,500円 ②令和元年度 申請36件、実績31件、交付金額14,106,993円 ③令和２年度 申請37件、実績12件、交付金額 3,129,500円 ④令和３年度 申請28件、実績15件、交付金額 4,025,000円 (2) スポーツ大会等支援計画（令和４年度） スポーツ大会等開催助成「財政支援大会：26件」 ※スポーツ大会等開催助成金制度による「財政支援」、「大会の広報・PR」、「行政機関への調整」等、主催者の要望に応じた各種運営支援の実施 ５ おもてなし支援 (1) 大会の広報・PRも兼ねて駅前歓迎フラッグを掲出。大会会場、市内宿泊施設にのぼり旗設置、まえばしの水の提供 (2) 東京オリパラ関連のレセプション等の開催 (3) 前橋マスコット「ころとん」の派遣
所 感 ※視察しての感想や岡崎市への提言など	・新幹線が停まる駅より約30分という点と、大きな大会を誘致した場合の宿泊施設の不足等、本市との共通点を感じた。グラウンド等が多く、また県のグラウンドとの調整もできるため、大会開催のために市民利用の支障リスクが少ない点や、トランポリン競技において施設の充実により全国的に「トランポリンなら前橋市」とのイメージがある点などは、大変感心した。本市もアーチェリー競技のほかにも、目玉となる特化した競技を選別し、力を入れていく必要性を感じた。 ・前橋市の運営方法については、行政だけではなくいろいろな団体、例えばプロスポーツ、各スポーツ団体、観光関係団体、報道関係者団体等の多くの民と官の力を結集し支えている。行事を実施するに当たり、特色を持たせるために、あえてトランポリンなどの、まだあまりメジャーでない競技の受け入れも目指し、スポーツ大会等受け入れ専門委員会を設置し、積極的に行っている。本市でも参考にできるのではと感じた。 ・現在は市職員が兼任する形で運営されているスポーツコミッションで、来年度からは観光コンベンション協会の中に移管し、フィルムコミ

ッション等と同様に扱われるということであった。市内のスポーツ施設が充実していることや、関東地域から比較的近い場所であることが強みであり、市の特長を生かした運営をしていると感じた。特に印象的だったのは、南スーダン陸上選手等支援・交流プロジェクトがふるさと納税で運営されているということで、ふるさと納税をすると支援先として選ぶことができるという資金源の確保方法が参考になった。

・スポーツMICEを考える中で、まずは大会が開催できる施設があることを優先した取り組みと感じたところである。また、ニッチなスポーツに着目し、本格的な競技器具を用意し、全国大会を誘致できるまでに育てあげ、聖地にまで昇格させた取組は、既存の環境を有効に利活用したものと考え、驚きと共に感心させられた。本市としても、将来を見据え強みを持てるスポーツを発掘されてはどうかと考える。

・観光資源の大きなものとして温泉があるが、宿泊施設が十二分にある状態ではないこともあってか、あまり宿泊を伴う観光推しをしているようには感じなかった。前橋駅の配架物は大学の案内がど真ん中で観光関係は横にあり、観光で消費を促そうという意識は弱く見えた。家康の八男のお寺や静御前の碑など、小さいながらも内容の濃いお寺が市街地に多くあり、観光かるたを境内に掲示するなど、周遊に向けた仕掛けがあった。萩原朔太郎の故郷であり、周遊コースの設定もされている。伝統工芸だけでなく、歴史や文化といった観光資源がある点は岡崎にも共通する点であり、うまく消費行動につなげていけるとよい。前橋は大会を開催するスポーツの種類が大変多く驚いた。全国大会3回の開催でメッカと名乗れるなど、スポーツ参加者の心をくすぐる施策もおもしろい。大会をする施設が整っている、交通の便がいい、観光資源もある、だけではない、そのまち独特の仕掛けを生んで近隣競合からの差別化につなげていることなど、大変参考になった。

・今回視察し、本市の組織構成や運営の考えは似ている取組と感じ、今後の進め方などは本市に反映できると感じた。特に、将来的には、フィルムコミッションやスポーツ大会等受入れのスポーツコミッションも含め民間登用を図り、法人格のコンベンション協会の運営に移行すること、ただしキャンプ地誘致等は行政が引き続き運営する考えを持っていることが参考になった。今回の視察を通し、特別委員会での提言に関しては、短中期は前橋市の取組、将来の長期ビジョンは、プロ・国際大会なども含めた金沢市の取組などを反映できれば良いと感じた。

・スポーツカレンダーを作成し、年間行事が誰にでも分かりやすく、かつ新しいスポーツや知らなかったスポーツにも注目し、気軽に観戦や参加ができる。組織は市長がスポーツコミッションの会長職にあることで行政が積極的に事業を推進していく姿勢をうかがい知ることができる。協賛する企業にも納得感と安心感が生まれ、協賛企業数の増加も期待でき、事業が成功を収めれば参加者は満足し、企業の売り上げにつながり、地域が潤い活性化していくという良い循環となる。一方で、行政が運営

	することで一定の枠からの脱却が難しいのではないかと感じる。 ・市直営によるＳＣということで、金沢市とは雰囲気の違いを感じた。また、令和５年度からは前橋観光コンベンション協会に移管されるということで、やはりアウトター型ＳＣの場合は外部組織による運営が望ましいと感じた。地元競技団体や既存施設をうまく活用し、少しマイナーな競技や特殊な設備が必要な競技などを前橋メッカとして誘致に力を入れるなど、首都圏という強豪都市がひしめく中でニッチな受け皿として活路を見いだしているところは大変参考にしたいと思う。
委員長の総括	前橋スポーツコミッションは平成25年から設置が検討され、平成27年に設立された組織で、オリンピック関連の取り組みもあったことで現在は行政主体の組織となっているが、以前は観光コンベンション協会からの出向者もあり、来年度には観光コンベンション協会への移管が予定されているとのことである。市長をトップに、行政、経済、スポーツ、観光、プロスポーツ、報道の各委員により組織され、専門委員会と部会が設けられている。令和３年度では九つの事業を実施しているが、コロナ禍もあり、内容の縮小や実施できなかった活動も発生しているが、それでも、スポーツ大会等開催助成金の支援では、28件の申請に対し、15件の実績となるなど、野村総合研究所の「スポーツ環境」の全国都市ランキングで、「する」「みる」「ささえる」の三つの項目のうち、「する」では9位、「ささえる」では3位となる充実した支援の取組が続けられてきた。また、ふるさと納税を活用したオリンピック南スーダン選手団や、プロスポーツ支援も注目すべき事業と言える。 県庁所在地でもあり、県の中心的施設が集中している前橋市であるが、岡崎市とは、同じ中核市であるだけでなく、面積や人口規模とともに、鉄道交通幹線の結節点から外れている点や、県内近隣市に産業都市があり、行政、文化都市の位置付けが濃い点など、共通点が多い都市と言える。そうした中で、スポーツコミッションを先進的に設置し、取り組んできた前橋市の取り組みは、2026のアジア大会を前に、スポーツツーリズムに力を入れていくべき本市にとり、参考とする点が多い。中でも、メッカづくり事業として、継続的に大規模大会を開催してくれる競技団体への手厚い補助などは、効果が大きいように感じた。